

御意見等の内容	
中間案の該当項目等	宮城県美術館は多くの県民だけでなく国内、そして海外の美術ファンからもコレクションの内容で注目されてきた実績があります。
P16	そして、会館内の展示だけでなく入り口からの導線や「アリスの庭」の雰囲気、佐藤忠良記念館の内部、外部の設え、さまざまな彫刻の置かれた謎めいた鏡の通路、緑が多い敷地全体が醸し出す「美」が評価され好まれてきたと思います。それらを含めたすべてが「宮城県美術館」の魅力であり、価値ではないでしょうか。 仙台市営地下鉄東西線が開通したため、国際センター駅、あるいは川内駅から徒歩で美術館に向かう雰囲気も、ある意味では美術館の魅力の一部かもしれません。以前のように仙台市営バスで二高前のバス停で降りるよりも「川内」という歴史ある文教地区を肌で感じる事ができます。車で行くにも、大橋、仲の瀬橋、澱橋、牛越橋、などなど広瀬川に架かる橋を渡ってたどり着くために周囲の町並みや風景を楽しめます。そのように、宮城県美術館は広瀬川河畔と一体であり、行き帰りに目にするものすべてが美術館の一部になっているかのようです。 先人たちが熱意を持って長年努力し知恵を絞って創りあげた、この美術館。設計・施工には耐久性も十分に考慮され、東日本大震災では軽微な損傷のみで耐震性に問題のないことも実証されています。また、平成 29 年度に策定された美術館リニューアル案の基になった調査でも躯体に経年変化による問題は皆無という結果が報告されています。
P4	築 38 年という数字だけを見て「県有施設再編」の施設リストに宮城県美術館が取りあげられることは、美術館の実態を理解せず、いわゆる「ハコモノ」のひとつと見なしているとしか思えません。宮城県に美術・芸術に対するまっとうな考えがあるならば、このような方針が出るはずがないのです。
P12～P13 P17	リニューアル案で示された予算が概算で 50～60 億円であるとか、工事による休館がおおよそ 2 年間であるなどは創意工夫で解決できる案件であり、当該案にも記載済のはずです。それよりも集約移転による建築規模や予算が示されておらず、この再編案が県の財政を逼迫させる原因になるのでは、と懸念いたします。県民会館と美術館を統合し共有部分で床面積を減らすとのことですが、ホールの付随施設や美術所蔵品の収蔵庫などを考えれば、減らすどころか増床するというのが一般の見方ではないでしょうか。移転先でリニューアル案を盛り込んだ施設を、というのは床面積や予算からし

P12～P13 P17	て無理な計画と思います。 人の集まる場所、行きやすい場所、など宮城野原でのメリットが挙げられていますが、美術館や図書館は「必要があつて」「わざわざ」行くというのが一般的な使われ方でしょう。前述のように川内に立地した環境は「わざわざ」行くにふさわしい心躍るもの。美術館の敷居を低くして気軽に、というのは必要ですが、他の用事のついでに来館をという集客のあり方は利用者を軽んじているとしか思えません。他の施設と一体になったとして美術・芸術への理解が深まるものなののでしょうか。はなはだ疑問です。「心の復興」道通し、です。 以上、私の思うところを書いてみました。 平成 29 年度のリニューアル案に立ち戻り、今の場所での存続を続け、必要な改修を施し、50 年 100 年先を見据えて、未来に向けて開かれた宮城県美術館になるよう、切にお願い申し上げます。
----------------	--